

第1章 都立新国際高校(仮称)の設置

(P1~P4)

1 これまでの検討経過

- 都立国際高校の入学選抜の応募倍率が高い状況を踏まえ、都心部に国際的に活躍できる人材を育成するとともに、海外帰国生徒や在京外国人生徒を受け入れる新国際高校(仮称)の設置を検討することを示した「都立高校改革推進計画・新実施計画」を策定(平成28年2月)
- 新国際高校(仮称)の基本的枠組や教育理念、教育課程等を取りまとめた「新国際高校(仮称)設置に係る検討委員会報告書」を公表(平成29年3月)

2 設置の基本的枠組み

設置	国際関係に関する学科を有する専門高校として新国際高校(仮称)を設置
設置場所	東京都港区白金二丁目(旧東京都職員白金住宅地)
課程・学科	全日制課程・国際教養学科(単位制)
学校規模	各学年6学級相当(240人)、計18学級相当(生徒総数720人)の規模を想定
海外帰国生徒・在京外国人生徒の受入れ	○一般枠とは別に特別枠を設置 ○特別枠の募集人数は今後検討
開校予定年度	基本設計の結果等を踏まえ、できるだけ早期に開校予定

3 教育理念等

(1) 教育理念

国際社会において、地球規模の問題解決に積極的に取り組み、他者と協調しながら、より良い未来を構築する人材を育成する。

(2) 育成すべき生徒像

- 豊かな教養と論理的思考力をもち、自ら課題を見付け、主体的に分析・判断・行動し、より良く解決することができる生徒
- 自己のアイデンティティを確立させるとともに、多様な価値観を受容しながら、新たな価値を見いだすことができる生徒
- 高いコミュニケーション能力を有し、他者との信頼関係を構築しながら、協力して課題解決に取り組むことができる生徒

(3) 教育方針の三つの柱

<b>修養</b> Cultivation	<b>幅広く豊かな教養を身に付けるリベラルアーツ教育の充実</b> ○ 専門教科「理数」「英語」及び学校設定教科「リベラルアーツ・国際」を履修させることで、世界で通用する豊かな教養を身に付けさせる。 ○ 土曜講座において、世界で活躍するトップリーダーから直接学び、対話することなどを通じて、国際的に活躍できる素養を身に付けさせ、国際社会で活躍しようとする意欲を培う。
<b>創造</b> Creation	<b>論理的思考力等を育成するとともに新たな価値を創出する探究的な学習の充実</b> ○ 生徒個々が設定する地球規模の課題を科学的に追究する「Global Issues Lab」を設定し、主体的な学習態度を身に付けさせる。 ○ 生徒が国内外の大学・研究機関等との連携、MOOC等の活用、国内外の高校生等との協同研究に積極的に関わることを通じて、多様な価値観を受容し、新たな価値を創出させる。
<b>協働</b> Collaboration	<b>信頼関係を構築する社会参加・社会貢献等体験活動の充実</b> ○ 国内でのボランティア活動やインターンシップ等の活動だけでなく、東南アジア地域等でのボランティア活動等を行う海外スタディツアーを生徒が企画・実施し、その活動を通じて、国際人としての豊かな人間性を醸成させる。

◆ 教育課程の基本方針

教育方針の三つの柱である「リベラルアーツ教育の充実<修養 Cultivation>」「探究的な学習の充実<創造 Creation>」「社会参加・社会貢献等体験活動の充実<協働 Collaboration>」を実現するため、適切な学習内容の配置及び指導を実践する柔軟な教育課程を編成する。

◆ 教育課程編成の基本的な考え方

- 様々な分野で国際的に活躍できる人材を育成するため、多様な進路選択が可能となる教育課程を編成する。
- 幅広い知識と深い教養を習得するため、哲学、地域経済等を学び、思考の基盤を形づくるとともに、豊かな人間性を育成する。
- 様々な体験、探究活動等を通して、日本の歴史や文化への理解を深めるとともに、異文化を理解し尊重する態度、国際的な課題に対峙する姿勢、意欲を育む。
- 自分の考えを整理し相手に伝えることができる、論理的思考力・表現力、語学力をあらゆる機会に育成するとともに、多様な意見を尊重しつつ、議論を深め合うことで、様々な人々と関係を構築できるコミュニケーション能力を育成する。

◆ 教育課程編成の特色

(1) リベラルアーツ教育の充実 <修養 Cultivation>

いわゆる理系、文系に偏ることなく学習することが重要であるため、次のような教育を実施する。

- ア 国際教養学科の設置
- イ 学校設定教科・科目の設定
- ウ 語学力と言語能力の育成
  - ・ 国語科：言語活動を通して、日本語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- ・ 外国語科：専門教科「英語」の履修や第二外国語を必修修とすること等により、自分の考えを日本語及び英語等で明確に表現できる生徒を育成する。
- エ 内容言語統合型学習（CLIL）の導入
- オ グローバル意識の向上
  - ・ 土曜講座において、世界で活躍するトップリーダーから直接学び、対話する機会を設けることなどで、ロールモデルやキャリアプランの参考とするとともに、国際社会で活躍しようとする意識を高める。

(2) 探究的な学習の充実 <創造 Creation>

探究的な学習の取組である「Global Issues Lab (GIL)」（地球規模の課題の科学的研究）により、論理的思考力や批判的思考力等を高めるとともに、コミュニケーション能力を向上させ、自らの意思により行動し実行できる生徒を育てる。

Global Issues Lab (GIL)

**Lab I 探究の型を学ぶ【1年次】**

- 理数探究の基礎を学び、探究の基本的知識や技能、分析力等を身に付ける。

**Lab II 地球規模の課題追究【1・2年次】**

- lab I で身に付けた能力を活用し、生徒個々が設定した地球規模の課題を追究し、解決を図る。
- 国内外の高校生とともに協同研究を実施する。

**Lab III アカデミック論文作成（和・英）・研究発表【3年次】**

- lab II の結果を論文（和文及び英文）として発表する。
- 研究発表として、GIシンポジウム「より良い未来の構築」を国内外の高校生と合同で実施する。

※ 国内外の大学や研究機関との連携や、MOOC等の世界的な大規模公開オンライン講座の活用により、研究をより深化させる。

### (3) 社会参加・社会貢献等体験活動の充実 <協働 Collaboration>

- ボランティア活動やインターンシップ活動等に取り組みさせることで、豊かな人間性や社会貢献の重要性についての意識の向上を図る。
- 1年次には主に国内で、2年次には、その経験を生かして、東南アジア地域等での海外スタディツアーを生徒が企画・実施する。

#### ◆ その他の教育活動

##### (1) 土曜講座の開講

- 大学や専門機関、企業等とも連携し、最先端の科学技術に関する講座をはじめ、哲学や思想等の人文関係の講座、アジア言語等の第三外国語を学べる講座、表現や芸術を扱う講座等幅広い分野の講座を設ける。

##### (2) ガイダンス機能の充実

##### (3) 海外大学への進学支援

- 海外の大学に必要なスキルを学ぶことができる科目「EAP (English for Academic Purposes)」を設ける。
- SAT、TOEFL等の試験に向けた対策講座、エッセイ作成講座等、海外大学進学に向けた各種講座を開講する。
- 海外大学進学セミナー・海外大学体験ツアーの実施
- 個別カウンセリング・出願準備サポートの実施

##### (4) 海外帰国生徒・在京外国人生徒への学習支援

## 第3章 施設・設備

(P17~P20)

#### ◆ 考え方

都立新国際高校(仮称)の教育理念や教育課程に関する検討結果を踏まえ、国際的に活躍できる人材を育成するための特色ある教育を可能とする施設・設備を整備する。

#### ◆ 施設の基本計画

##### ○ 施設整備方針

- ・ 土地の一部を造成してグラウンドを確保するとともに、校舎等を新設する。その際、土地の形状を踏まえながら生徒の動線等を検討し、より使いやすく効率的な活動ができる施設を整備していく必要がある。
- ・ デジタルデバイスを生徒1人1台以上使えるようにするとともに、校内のどこにおいてもそれらを利用できる情報通信環境を構築する。あわせて、クラウドコンピューティングやAI、VR等最先端技術を活用した機器の導入についても検討する必要がある。

##### ○ 主な施設・設備の整備内容

- ・ 英語や第二外国語、専門教科「理数」の科目等、特色ある教科・科目において、少人数・習熟度別授業を行うために必要な講義室等を整備する。
- ・ 生徒が自主的な学習や探究活動を行うための拠点として、図書館、自習スペース及びディスカッション等に活用できるオープンスペースが一体となったラーニング・コモンズを整備する。
- ・ 海外の高校との合同授業や大学等教育機関との連携(講義、演習、指導・助言、教員研修等)を可能とするため、大型プロジェクターを複数台設置した、双方向通信が可能なオンライン会議型の視聴覚室(ワールドオンラインルーム(仮称))を整備する。
- ・ 外国人指導者等が常駐し、生徒間交流や留学生等との交流が可能となるオープンスペースを整備する。